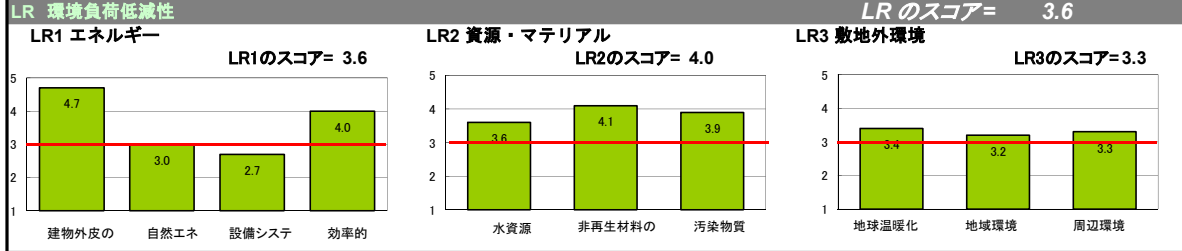
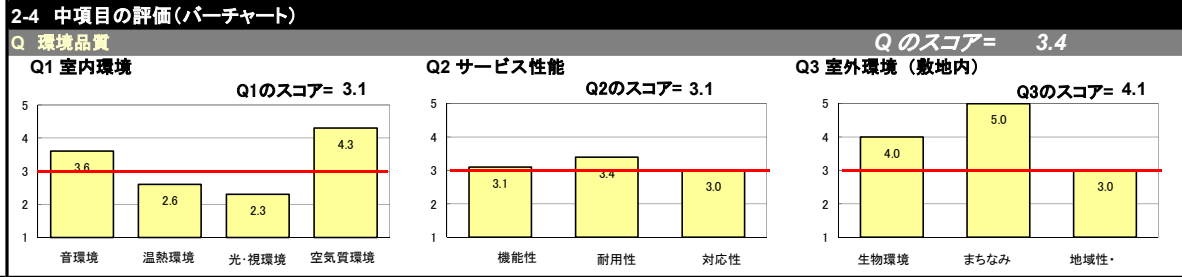
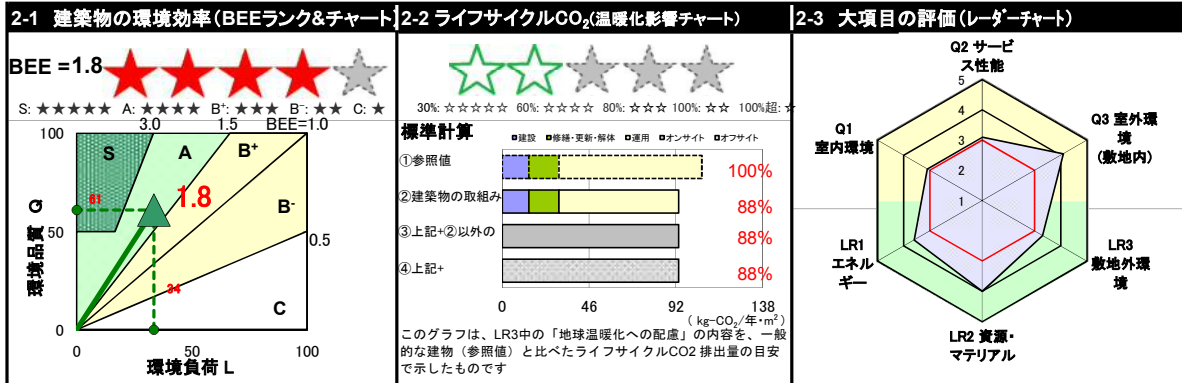


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタ紡織 警備棟	階数	地上1F
建設地	愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	8人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,360時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年4月3日
敷地面積	24,341 m ²	作成者	石橋
建築面積	206 m ²	確認日	2019年4月3日
延床面積	183 m ²	確認者	細沢



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">21.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性					3.0	0.29			-	3.0
3.1 空間のゆとり					1.8	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高3.1m		1.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性					4.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性					4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			構造部材を痛めることなく修繕更新可能		5.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			構造部材・仕上部材を痛めることなく修繕更新可能		5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			更新に対応した仮設スペース確保		4.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			バックアップ用機器スペース確保		4.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			-	4.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	外構緑化の促進		4.0	0.30			-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	景観に配慮した外構計画		5.0	0.40			-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.6
LR1 エネルギー						0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI:0.83		4.7	0.30			-	4.7
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20			-	3.0
3 設備システムの高効率化					2.7	0.30			-	2.7
4 効率的運用					4.0	0.20			-	4.0
集合住宅以外の評価					4.0	1.00			-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制			コミショニング実施		5.0	0.50			-	
集合住宅の評価					-	-			-	
4.1 モニタリング					-	-			-	
4.2 運用管理体制					-	-			-	
LR2 資源・マテリアル						0.30				4.0
1 水資源保護					3.6	0.15			-	3.6
1.1 節水			節水型便器採用		4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.3	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			工水を雑用水へ利用		4.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.1	0.63			-	4.1
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	スパンシール:地下ピットコンクリート打継部		5.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	アスファルト・インターロッキングブロック・タイルカーペット		5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	リサイクル促進対策2ポイント実施		5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.9	0.22			-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材種別5項目		5.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.68			-	
1 消火剤					-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP0.01未満かつGWPが低い発泡断熱材を使用		4.0	0.50			-	
3 冷媒					3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境						0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	換算スコア=3.4		3.4	0.33			-	3.4
2 地域環境への配慮					3.2	0.33			-	3.2
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					4.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	自転車置場の設置、駐車スペースの確保		5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制			評価ポイント5ポイント		5.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮					3.3	0.33			-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			-	
1 騒音		独自			3.0	1.00			-	
2 振動		独自			-	-			-	
3 悪臭					-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40			-	
1 風害の抑制					3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制					-	-			-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制					4.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害に配慮した外装計画		5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			グレアを抑えた外装計画		4.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

トヨタ紡織 整備課

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:21%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	刈谷工場の入口部の顔として景観に優れると共に、警備機能を充実させ、使い勝手の良い計画としている。
Q1 室内環境	騒音レベル・開口部遮音性能に配慮した計画としている。
Q2 サービス性能	休憩室を十分に確保した計画としている。加えて、この部屋は有事の際の初動対応室としても機能させる計画とする。
Q3 室外環境(敷地内)	景観に配慮した外構計画としている。
LR1 エネルギー	運用後、グローバル本社と合わせてコミッショニングを実施していく。
LR2 資源・マテリアル	アスファルト・インターロッキングブロック・タイルカーペット等のリサイクル材の使用を実施する。
LR3 敷地外環境	光害に配慮し、グレアを抑えた外装計画としている。
その他	